

「富山県ギャンブル等依存症対策推進計画（第2期）」（素案）に対する意見募集（パブリックコメント）へのご意見及び県の考え方について

1. 意見募集期間 令和8年1月21日(水)～令和8年2月10日(火)
2. 意見件数等 意見提出のあった通数 16通
3. 意見の内訳 提出された意見件数 24件

項目	件数
〈第2章〉ギャンブル等依存症をめぐる状況	2
〈第4章〉具体的な取組み	17
その他	5

意見者等を特定できる情報及び他者を中傷するような表現を除いています。

<第2章>ギャンブル等依存症をめぐる状況

ご意見	県の考え方						
<p>全国ギャンブル依存者家族の会 富山の活動について記載いただいておりますが、こちらは家族だけでなく当事者の方も参加できる場であることも記載いただくと幸いです。当事者の方も回復の道につながるきっかけとなる場を家族の会が提供しているということを広く知っていただけたらと思います。</p>	<p>ご意見を踏まえ、下記のとおり修正します。                  (追記内容) 16 ページ ※下線部  <b>【表 13】 県内の家族会</b></p> <table border="1" data-bbox="568 331 1506 456"> <tr> <th data-bbox="568 331 1034 376">団体名</th> <th data-bbox="1034 331 1353 376">区分</th> <th data-bbox="1353 331 1506 376">活動拠点</th> </tr> <tr> <td data-bbox="568 376 1034 456">全国ギャンブル依存症家族の会 富山</td> <td data-bbox="1034 376 1353 456">本人・家族・友人のグループ</td> <td data-bbox="1353 376 1506 456">富山市</td> </tr> </table>	団体名	区分	活動拠点	全国ギャンブル依存症家族の会 富山	本人・家族・友人のグループ	富山市
団体名	区分	活動拠点					
全国ギャンブル依存症家族の会 富山	本人・家族・友人のグループ	富山市					
<p>令和7年3月21日に閣議決定された上位計画にあたる「ギャンブル等依存症対策推進基本計画」は、「ATM等」とATMの後に等があり、対象はATMではありません。上位計画に則した取組と同じ内容へ変更していただくか、撤去等には撤去以外の選択肢も含まれており、これまでの経緯や業界の取り組み状況から当項目の削除をお願いします。</p>	<p>ご意見を踏まえ、下記のとおり修正します。                  (修正内容) 19 ページ ※下線部  <b>【表 15】 関係事業者の取組み</b>                  店内 ATM 等の撤去等</p>						

<第4章>具体的な取組み

ご意見	県の考え方
<p>富山県心の健康センターのリーフレットについて、内容を今の状況に合わせて見直していただけたらと思います。市役所で手に取ったところ、平成29年3月作成とあり、コロナ禍以降の変化を考えると、最新の情報に更新されると利用しやすくなると感じました。</p> <p>リーフレットが新しくなれば、次のような場所に広く置いていただくことで、支援につながるきっかけが増えると思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関</li> <li>・保健所</li> <li>・市町村窓口</li> <li>・社会福祉協議会</li> <li>・教育機関</li> <li>・司法機関</li> <li>・企業・職場 など</li> </ul> <p>「富山県心の健康センター」は、ギャンブル依存症を含む相談の大切な窓口だと思っています。必要な方が支援につながりやすくなるよう、リーフレットの更新と配布の充実をご検討いただけるとありがたいです。</p>	<p>「第4章 具体的な取組み」の「1. 予防教育及び普及啓発」において、「依存症の理解を深めるための普及啓発」について記載しています。</p> <p>いただいたご意見も参考にしながら、ギャンブル等依存症対策の取り組みを進めてまいります。</p>

ご意見	県の考え方
<p>「富山県依存症相談支援センター」の三つ折りパンフレット（令和4年7月改訂）について、令和4年以降、オンラインによる公営競技やギャンブル類型の利用環境は大きく変化しており、スマートフォンやアプリを通じたアクセスの容易さが、特に若年層における依存症リスクを高めています。</p> <p>こうした現状を踏まえ、パンフレットの内容について最新の状況に即した見直しを行い、県民への広い周知・啓発を図っていただくことを強く要望いたします。</p>	<p>「第4章 具体的な取組み」の「1. 予防教育及び普及啓発」において、「依存症の理解を深めるための普及啓発」について記載しています。</p> <p>いただいたご意見も参考にしながら、ギャンブル等依存症対策の取組みを進めてまいります。</p>
<p>県内にはまだ相談できずに悩んでいる方が多数います。ギャンブル依存症は病気という事、相談先がある事を広く知ってもらいたい。</p>	
<p>ギャンブル依存症は、ケースによっては、一家離散となる、貧困に陥る、精神疾患になるなど、家族も巻き込まれ、大変辛い状況になります。</p> <p>ギャンブル業界は金を絞り出すために巧妙に仕組まれたサイトから、スマホ一台で、いつでもどこでもギャンブルにアクセスしやすい状況を作り出しています。また、ギャンブル依存症はFXでも発症します。ランセットの論文「ギャンブルに関するランセット公衆衛生委員会」にもあるとおり、これは個人の責任という概念ではなく、ギャンブル業界から子どもたちを守らないといけない、公衆衛生上の問題です。ギャンブル依存症はWHOでも認められたれっきとした病気です。病気ですから治療につなげることができます。</p> <p>ギャンブル依存症は低年齢化しており、若い人ほど重症化しやすい病気です。重症化の先には自死や犯罪に巻き込まれるという深刻な問題に発展します。正しい知識は、予防と早期治療につなげることができます。</p>	
<p>簡単にギャンブルができてしまう現在、県内にも相談することもできずに悩み続けている人もいます。依存症のことをもっと情報提供して相談できる環境になることをのぞみます。</p>	
<p>近年、オンラインギャンブルの急増により、若年層を中心に深刻な問題が生じています。依存症の発症を防ぐためには、早期の予防教育が不可欠です。学校教育、地域、職域など、あらゆる場面で体系的な予防教育を実施できるよう、計画に明確に位置づけていただきたいと考えます。特に若年化が進んでいるオンラインカジノについては小学校、中学校での予防教育を早々に行う必要があると感じます。</p>	<p>「第4章 具体的な取組み」の「1. 予防教育及び普及啓発」において、「依存症の理解を深めるための普及啓発及び予防教育の推進」について記載しています。</p> <p>いただいたご意見も参考にしながら、ギャンブル等依存症対策の取組みを進めてまいります。</p>

ご意見	県の考え方
<p>依存症への対応だけでなく、今後は予防的な取り組みがより重要だと感じています。現在は小学生・中学生の頃から IT に触れる機会が増え、実際に小学生からオンラインカジノに関わっていた事例も報告されています。学校現場での早期啓発と、ギャンブル依存症だけでなく家族への理解や適切な関わり方についての周知が必要です。</p>	<p>「第4章 具体的な取組み」の「1. 予防教育及び普及啓発」において、「依存症の理解を深めるための普及啓発及び予防教育の推進」について記載しています。</p> <p>いただいたご意見も参考にしながら、ギャンブル等依存症対策の取組みを進めてまいります。</p>
<p>ギャンブル依存症の若年化により、今では高校生が犯罪に手を染めています。ギャンブル産業の手口やオンラインカジノの広告力に追いつくには、高校生からの教育では間に合いません。小学生、中学生からの予防教育が必要です。</p> <p>また保護者にも合わせて、病気の正しい知識を身につけてもらう必要があります。予防、早期発見、早期介入できるシステムを作りたいです。</p>	
<p>中高生に予防教育をしてほしい。SNS・資料ではなく、授業として「依存症当事者による生の声(体験談)」を聴く機会を設けて、単なる「遊びすぎ注意」という道徳的な説明ではなく、ギャンブルが脳の報酬系に作用し、本人の意志に関わらずコントロールを失わせる「医学的な脳の疾患」であるという理解を深める内容を伝えたい。体験談で日常生活や人間関係をどのように破壊し、そこからどう回復したかという「現実」に触れる生の声は抑止効果が高いと考えます。</p>	
<p>公営競技、ぱちんこパチスロなどの他、オンラインカジノによる依存症発症のスピードが異常に早く、金額も多額になって来ている。ゲーム感覚で始める事が多く、お金を賭けている事を実感のないまま借金が増えていく。</p> <p>予防教育は早ければ早いほど良く、ギャンブルをすれば勤勉な人、真面目な人など依存症からかけ離れているイメージな人でもなる事を周知してもらい、安易に手を出さないように教育していかなければならないと思う。</p> <p>これからの日本を支えていく若者を守る対策を進めて欲しい。</p>	
<p>学校、企業への予防教育や啓発の取組みを盛り込んでほしい。</p>	

ご意見	県の考え方
<p>ギャンブル問題は、当初は賭金確保のための借金から始まり、進行すると借金や家計からの使い込みを取り戻そうとして、さらにギャンブルにのめり込む悪循環に陥ります。私の家族も同様でした。これは当事者個人の問題ではなく、社会的な課題だと考えています。</p> <p>特にオンラインギャンブルは借金額が高額になりやすく、闇金や犯罪につながるリスクも大きい現状があります。また地方では、小さなコミュニティの中での偏見により、当事者や家族が相談できず孤立してしまう問題も深刻です。依存症を人格や性格の問題と捉える誤解が、さらに孤立を深めています。</p> <p>どうか富山県において、このような孤立が生まれない仕組みづくりを進めていただきたいと願っています。</p>	<p>「第4章 具体的な取組み」の「1. 予防教育及び普及啓発」において、「依存症の理解を深めるための普及啓発」について記載しています。</p> <p>また、「第4章 具体的な取組み」の「2. 相談支援体制の強化」において、「他機関との連携・協力による相談支援の充実」について記載しています。</p> <p>いただいたご意見も参考しながら、ギャンブル等依存症対策の取り組みを進めてまいります。</p>
<p>富山県には、ギャンブル等依存症に特化した入院治療が可能な拠点病院が存在しません。依存症は自殺企図や精神疾患、鬱病など併発する病気です。自殺企図などは、一時的に入院が必要であり医療機関の整備は急務です。県として、専門医療機関の育成・指定、医療従事者の研修支援など、医療体制の強化を進めていただくことを強く求めます。</p>	<p>「第4章 具体的な取組み」の「3. 医療提供体制の充実」において、「専門医療機関の育成・指定及び医療従事者の研修支援」について記載しています。</p> <p>いただいたご意見も参考にしながら、ギャンブル等依存症対策の取り組みを進めてまいります。</p>
<p>当会は、富山県のギャンブル等依存症対策の推進に真剣に取り組んでおり、県との協力を第一に考えています。家族当事者としての経験と知見を活かし、県民の支援体制の充実に貢献したいと強く願っております。行政と民間団体が連携することで、より効果的な依存症対策が実現できると確信しています。</p>	<p>「第4章 具体的な取組み」の「2. 相談支援体制の強化」において、「他機関との連携・協力による相談支援の充実」について記載しています。</p> <p>また、「第4章 具体的な取組み」の「4. 社会復帰支援及び家族支援」において、「民間団体との連携推進」について記載しています。</p>
<p>ギャンブル依存症家族の会などの民間支援団体と協力・連携して、日本の子どもたちの未来をこの残酷な病気から守る取組を早急に進めてほしいです。</p>	<p>いただいたご意見も参考にしながら、ギャンブル等依存症対策の取り組みを進めてまいります。</p>
<p>富山県では、ギャンブル依存症に強い病院の存在が未だなく、或いは今後連携を深めながら、そうした病院へと強化させる課題が残ると感じますが、民間団体と連携など強めながらそうした病院となっていくことを希望します。取り組んでいきたいです。</p> <p>県の行政機関は役所であり、こうした具体的な問題に対応するには限界があります。実際には、民間団体や自助グループとの連携を外しては、富山県でギャンブル依存症の問題対応としては、無理であり、さらには、全国的な専門の回復施設の存在、全国的なギャンブル依存症の高度医療/専門病院の存在、犯罪の問題にどう対応しているか、ギャンブル依存症から来る自殺企図や自殺念慮（実際に自殺してしまう問題）に対して直ぐに動ける（初動）スキル、オンラインカジノに代表するような現在の新しい情報、トレンド情報を取り込むには、現場を持つ人材や集団は、必須と考えます。</p>	

ご意見	県の考え方
<p>家族会、考える会は、ギャンブル依存症の問題で困り果ててやってきた家族、当事者の気持ちが痛い程わかる、どうしていったら自分自身が元気に日常を取り戻せるか、わかります。なぜなら、自分たちも同じ状況にいたからです。家族を支援する家族会、当事者を支援する考える会と連携していただき、富山県でも一緒にギャンブル依存症対策をしていきたいです。ギャンブルというと、一昔前は、パチンコ、スロット、麻雀等、その場所にいかなければ出来ないものでした。今現在、スマホ一つあれば簡単にアクセスできてしまいます。小学生でもゲーム感覚でオンラインカジノをしてしまうほど、今のギャンブルはある意味進化し続けています。家族相談で現場で関わる中では、最新の情報(今のギャンブルの実態、困った家族、当事者の相談内容)が入ってきます。富山県でも、家族会、考える会と様々な機関が連携出来るようお願いしたいです。</p>	<p>「第4章 具体的な取組み」の「2. 相談支援体制の強化」において、「他機関との連携・協力による相談支援の充実」について記載しています。また、「第4章 具体的な取組み」の「4. 社会復帰支援及び家族支援」において、「民間団体との連携推進」について記載しています。</p> <p>いただいたご意見も参考にしながら、ギャンブル等依存症対策の取組みを進めてまいります。</p>

その他

ご意見	県の考え方
<p>全国ギャンブル依存症家族の会 富山は、家族当事者としての視点を持ち、相談支援や啓発活動を通じて多くの事例に向き合ってきました。行政・医療・支援機関だけでは把握しきれない「現場の声」を届けられるのが家族会の役割です。</p> <p>県の関係者会議に、当会を正式な構成員として加えていただき、政策形成の段階から家族当事者の正しい当事者との関わり方、対応とその知識を関係者会議のメンバーとなることで県民の悩みに寄り添った対応と支援をできるようにしていただきたいと考えます。</p>	<p>いただいたご意見も参考にしながら、今後の関係者会議の構成機関について検討してまいります。</p>
<p>富山県ギャンブル等依存症対策関係者会議に「G A F A あいの風富山ステップG」および「ギャマノン 富山G」の代表者を会議メンバーとして参加させて頂きたくお願い致します。理由はギャンブル当事者を回復されるためには家族の協力が不可欠かつ重要であり経験者の対応が必要です。</p> <p>また、予防教育、啓発広報活動に於いてもギャンブル依存症者を家族に持つ立場からの提言は有効な意見となります。当会議が更にギャンブル依存症に苦しむ関係者の手助けとなるために検討をお願い致します。</p>	
<p>富山県ギャンブル等依存症対策関係者会議には、全国ギャンブル依存症家族の会を正式に参画させていただきたいです。日々、当事者と家族を直接支援している現場の声を政策に反映させることが、より実効性のある対策につながると考えます。</p>	

ご意見	県の考え方
<p>家族のギャンブルの問題(借金、闇金、家庭内窃盗、横領、窃盗等)で困り果てた家族や、当事者と、現場で関わっているのが民間団体である、全国ギャンブル依存症家族の会富山、公益社団法人ギャンブル依存症問題を考える会です。家族支援は家族会、当事者支援は考える会が今困っている家族や当事者本人に聞き取りサポートしています。現場の声をもっと聞いていただきたいです。富山県ギャンブル等依存症対策関係者会議にも、家族、当事者の民間団体を入れていただきたいです。ギャンブル依存症問題は、様々な団体が連携をして、取り組むべき問題と思っています。</p>	<p>いただいたご意見も参考にしながら、今後の関係者会議の構成機関について検討してまいります。</p>
<p>次回の関係者会議には、自助グループ GAFA や家族会メンバーも加えて欲しいです。実際の現場で起きる問題、当事者の声を入れてください。</p>	